

《全国学力調査結果概要のお知らせ》

令和7年度 全国学力・学習状況調査 正答率 3年生 4月18日(木)実施

◎ 平均正答率の状況(本校・県・全国)

	国語	数学	理科
本校	57	50	510
県平均	55	47	495
全国平均	54.3	48.3	503

※理科は500を基準とするIRTスコアで表示されます。

◎ 本校の課題

国語は、話すこと・聞くこと「資料や機器を用いて、自分の考えが分かりやすく伝わるように表現を工夫することができるか」(正答率28.8%)、数学は「式の意味を読み取り、成り立つ事柄を見だし、数学的な表現を用いて説明することができるか」(正答率22.8%)、理科は「小腸の柔毛、肺の肺胞、根毛に共通する構造について学習する場面において、共通性と多様性の見方を働かせながら比較し、多面的、総合的に分析して解釈することができるか」(正答率34.4%)等が課題として明らかになりました。

今後、中学校・高等学校の学習、入試、そして社会においても様々な場面で、様々な情報を整理・分析し、整理・分析する中で自分の考えを構築し、その考えを説明したり表現したりする機会が増えてきます。普段から様々なことに興味・関心を持ち、本や新聞記事などを読むことを通して、言葉の力を付けていくことが重要です。さらに、その言葉の力を活用し、自分の考えを、相手に伝わりやすいように表現していく力を磨いていくことも必要です。これらの力の定着のためには、より一層、授業での意欲的な学ぶ姿勢と家庭学習の定着が求められます。

◎ 今後の取り組み

国語…提案や主張など、自分の考えを話したり、それらを聞いて質問や助言を行ったりする学習活動を設定する。これらの活動を通して、自分の考えだけを主張するのではなく、主張を支える根拠となる情報を収集し、その情報を効果的に取り入れる工夫について考察させる。これにより、複合的な視点で表現できる力の育成を図る。

数学…言葉や式などの数学的な表現を用いて、論理的に考察し表現したり、その過程を振り返って考えを深めたりする学習を充実させる。その際、自分の考えをペアやグループの中で説明し検討し合う活動を設定し、簡潔かつ適切な表現ができるように指導する。

理科…生徒自身に仮説を立てさせ、実験手順や観察の意味を考えさせる学習活動を充実させる。また、実際の観察記録やデータを用いて考察・推論を深める活動を取り入れる。これらの活動により、理解の深化と科学的思考力の向上を図る。

今回の調査結果の分析を通して明らかになった本校の課題を、今後指導内容や指導方法の改善に生かし、さらなる学習活動の充実を図ってまいります。